

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
放課後等デイサービスgreenbottlehouse		令和 8 年 3 月 末 日				
	チェック項目	はい		工夫している点	課題や改善すべき点	
		はい	いいえ			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		事業所全体の再構造化を実施し、各エリアが以前よりゆとりのあるスペースとなった。	再構造化をしたがその環境が児童に合っているか、日々観察しながら必要時には変更できるようにいたします。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		定員に対する基準よりも多くの職員を配置できている。重度の児童に対してはより手厚い支援ができるような体制をとっている。	配置数については実務上問題ない数だと考えますが、必要時には追加の雇用を考えます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	1	室内は全て構造化を行っており、ツールは児童の特性に合わせて使い分けしている。バリアフリー化は構造上難しいが、階段には手すりや鍵付きの扉を設置しており、安全に配慮している。	外部講師の意見をききながら、必要があれば設定し直します。階段等も手を繋いだり後ろに職員が立つようしながら、今後も安全に配慮した支援を行ないます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		ぬいぐるみやフロアマット等は定期的に洗濯し、清潔を保っています。また、再構造化後も静と動のエリアは分けており、活動に合わせて使用できる環境となっている。	現状の清掃ルールで実施しますが、感染症の流行期には消毒回数を増やすなど、時期に合わせて対応します。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		カムダウン等、個別に使用できる部屋も準備している。また、それを児童自身で訴えることのできるツールを使用している。	分かりやすく提示し、児童自身で動いているのでこの環境設定は今後も続けていきます。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8		毎朝必ずミーティングを実施している。職員全体で現状の課題や今後の支援策を共有している。支援の好事例も共有できている。	毎日のルーティン化しているため今後も続けていきます。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		評価結果表は毎年職員へ周知している。それ以外にも保護者等から相談しやすい環境となるよう保護者との信頼関係の構築にも励んでいる。	保護者様からの意見は職員へ周知しており、未熟な点があったときにはそのままにせず、即対応を心がけています。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		日々の全体ミーティングのほか、個別面談も随時実施し、職員の意見を聴く機会を多くとるように心がけている。	普段から雰囲気の良い職場環境を整えることで、面談時以外でも気軽に相談できる環境ができていると感じます。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8		公的な第三者機関ではないが、外部講師2名の評価を月に1度程度のペースでもらうようにしている。	公的な第三者機関の外部評価を実施するかどうか、今後検討します。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		月に1度程度、外部講師を招いた研修会を実施している。支援の経験が浅い職員でも質問しやすい環境にあり、スキルアップ向上に繋がっていると感じる。	定期的な研修制度により、職員個人のスキルアップは確実にされていると感じます。また、研修の機会で日々の支援を振り返りアドバイスいただくことでこの支援方法は正解だったなどと認識できるため、モチベーションアップにも繋がっています。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		ホームページに掲載している。	プログラムに変更があったときには修正し、保護者等に必ず周知いたします。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8		日々の児童の様子から環境設定を変えている。保護者ともこまめに連絡を取り合い、現状の課題の把握したうえで放課後等デイサービス計画を作成している。	契約時のアセスメントプラス、モニタリング時にもアセスメントを行なっています。すぐに支援計画へ反映できるため今後も続けていきます。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		児童発達支援管理責任者のみではなく担当職員全員で情報を共有し、現状の最善の支援策を考えている。	ミーティングやカンファ等で意見を聴き、児発管以外の意見を確実に取り入れています。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		児童に関する情報は日々共有できるようにしているため、自然と放課後等デイサービス計画に基づいた支援ができるような環境となっている。	支援計画書は相談員へも共有しています。職員間での支援統一に向けた情報共有は今後も続けていきます。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		フォーマルなアセスメントは保護者から参考資料としていただいています。日々の行動については職員と共有できる環境であるため、どの職員もアセスメントしやすい環境となっています。	現状の方法で問題なく適応行動を把握できていると感じます。事業所で答えが出ない場合は外部講師へ相談し、助言をいただくようにし、より広い視点での支援を心がけていきます。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		各項目における支援策について、保護者はもちろんどの職員にも分かりやすい説明・提示をしたうえで設定している。	各項目の狙いを踏まえてうえで設定できていると感じます。移行支援については今後児童の年齢が上がるにつれ実例も増えていくと考えています。対応できる仕組みを整えます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		特性に応じて活動プログラムを変えている。ミーティング時にスタッフで意見を出し合っている。	今後も現状同様続けていきます。

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	いつも同じではなく、体調が悪い時は無理なく実行できるようなスケジュールに組み替えている。 レク内容は偏らないよう立案者を月で変えるなどして固定化しないよう工夫している。	立案者を変えることで偏りが無いこと、職員への負担も分散されることから今後も現状のまま続けていきます。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8	単純に個別と集団を組み合わせるのではなく、児童の特性によって活動内容や児童の組み合わせを考えて取り組んでいる。	児童の適性に合わせた計画の作成はできています。今後も保護者や関係機関と連携し計画に沿った支援をいたします。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	その日の来所児童の確認、注意事項、支援内容は全員で共有している。また、全体ミーティングの後は担当階ごとのミーティングも実施している。	現状の方法で問題ないと考えます。ただし、職員の能力に応じて都度適切に役割の変更を検討します。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	児童帰宅後は事業所の片づけ等や上司への報告をメインで行うため、支援の振り返りは翌日朝に実施している。	現状の方法で問題なく情報共有、支援内容の共有ができています。今後問題が起きた場合には方法を再検討いたします。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	携帯で個別に記録ができるような仕組みとなっているため、リアルタイムで様子が共有できる。 リアルタイムで共有できるため上司からの指示も早い。	小さなことでもすぐに共有できるので見逃しがなく、現状記録のツールの変更などの改善の必要はないと考えます。	
	23	定期的にもモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	現在モニタリングは半年サイクルで見直しているが、これとは別に必要時には期間を空けずにモニタリングを実施することもある。	モニタリングは今後も半年サイクルで行いません。職員や保護者から見直しのタイミングについて意見が上げればその都度検討します。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8	基本活動に偏りがないようにその日の児童の調子も含めてバランスよくスケジュールを作成している。	基本活動を組み合わせた計画を作成し、それに沿った支援を行います。また、保護者からの意向も取り入れ支援いたします。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8	おやつの内容や余暇活動などは特性に合わせて自身で決定し、提示できるようなツールを使用した支援を行っている。	現状のツールで自己選択・決定できていると考えているため今後も児童に合った適切な方法で支援を行います。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	日々その児童に携わっている職員が資料を作成し、参加している。	このような場に参加できる職員が増えることを目標に、個々のスキルアップを目指します。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	2	連携が必要な場合には主治医に連絡をとるなどし、事業所での対応方法等をお聞きし支援できるような体制をとっている。	いつでも現状の共有ができるような体制は整えています。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8	下校時間表は学校から頂くが、急な下校時間の変更等は学校+保護者と確認している。 万が一お迎え時に遅れる場合などの連絡方法は学校指定の手順で適切に行なっている。	保護者様のご協力もあり、下校時間・行事等の把握は問題なく出来ています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	2	就学前に利用していた児童等とは支援方法を共有いただくなどし、支援方法の統一を図っている。	左記にあるよう、今後も連携を図り支援に繋げていきます。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7	1	高校を卒業し移行した児童はまだいないが、その際には引継ぎの書類や現場見学等の対応はさせていただき準備はある。	見学や資料のお渡し等でお知らせさせていただきたいと考えています。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8	今年度新たに1名の外部講師を招き、より広い視点で助言をいただく機会が増えた。	日々の支援の振り返りを療育のプロから受けることで職員のモチベーションアップに繋がっています。今後も継続して実施いたします。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	8	普段の療育時間の中で児童クラブ等との関わりを持つことは現状難しいが、外出した際には出先で出会う方たちとの関わりがある。	平日は交流の時間をとることが難しいため、変わらず外出時の交流を重きにおいて活動いたします。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	2	協議会へは参加していないが、市のサービス事業所のこども部会やTEACCHプログラム研究会へは参加している。	協議会への参加は前向きに検討いたします。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	8	毎日連絡帳で利用時の様子をお伝えしている。 こちらからお伝えするだけでなく、保護者からも気軽に相談いただいている実感がある。	保護者との連携はうまく取れていると感じます。信頼関係が続くよう、今後もこまめなやり取りを意識します。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	事業所だけの研修であってもその内容をSNSで公表するなどし、情報提供している。	保護者参加の研修機会は多くはないが、家庭での支援でも活かせるような支援方法は今後も共有していきます。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	契約時の面談で丁寧に説明している。 規定が変わるときは都度案内文を出して同意を得ている。	都度不安に思われたことは気軽に相談していただいていると感じます。契約時だけでなくその都度、丁寧な説明を行いません。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	必ず保護者の意見をきいてから作成するようにしている。 電話や訪問等で意向を聴く機会を設けている。	事業所の意向と保護者の意向、どちらも最善の形で反映できるよう、こまめな意向確認は今後も続けていきます。	
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8	説明時に計画に対して疑問点がないか、事業所側のみの視点となっていないか改めて確認し、同意を得るようにしている。	左記の方法を今後も続けていきます。また、保護者の意向を将来を見据えたうえで採用できない場合はその理由も丁寧に説明し同意を得て計画を作成します。		
39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	電話や訪問等で、都度適切に対応できていると感じる。	相談に応じるだけでなく、これに困り感はないか？など、保護者目線でも物事を考え、ご家族に寄り添った支援ができるよう今後も精進いたします。		

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8		保護者会はないが、日々のやり取りの中で他の児童との関わりをお伝えしたり、事業所内で保護者同士お会いになった場合は職員を介して紹介するなど保護者同士がコミュニケーションを取りやすくなるような声かけを行なっている。	保護者会については現状時間の調整が難しく実施できていません。今後、親子レクのような形で関わりを持つ機会が増えればと考えています。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		苦情窓口については契約時の書類で周知している。苦情があった際には迅速に対応し、必要があれば市への報告も行なっている。	事業所に直接言いにくい内容については契約時に第三者機関の窓口も案内しています。苦情があった際には適切に対応いたします。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8		SNSで活動内容や児童の様子、事業所の方針など、様々な情報をこまめに発信している。	SNSみました、などの声も多くいただき、以前より事業所の中身を知ってもらえていると感じています。今後もこまめな情報発信を続けていきます。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		SNSにあげる際には顔や名前はスタンプで隠している。契約時に個人情報の取り扱いについては希望をとるようにしている。	左記の対応を今後も続けてまいります。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		特性に応じて情報伝達ツールを変え対応している。家と事業所とで伝達方法が違ふことで児童が困惑しないよう、内容も可能な限り統一している。	現状の方法で問題なく配慮できていると考えます。ツールについては適宜改善の余地がないか職員で共有するようにしています。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	1	現状地域住民を招待するなどの行事は行っていない。	人との交流が刺激になる児童、そうでない児童と様々なため、タイミングを見て今後検討いたします。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		各マニュアルは整備し、職員へ周知している。また発生を想定した訓練や研修も実施している。	毎年の研修に加え、各マニュアルの整備・改善は今後も継続して行ないます。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		マニュアルの策定、研修ともに実施している。	毎年の研修に加え、各マニュアルの整備・改善は今後も継続して行ないます。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8		契約時にアセスメントをとり、把握するようにしている。また、全職員へも周知し、いつでも確認できるように準備している。	都度状況が変わった場合には保護者から共有していただいています。その内容は必ず全職員が把握できるように体制を取っているため問題ないと考えます。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		現在アレルギー重度の児童はいない。例えばおやつにアレルギー源が含まれている場合はそもそもその商品を購入しないなどといったルールを設定している。	おやつだけでなく調理レク時にも食材は購入しないようにしています。今後も継続してこの対応をしていきます。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		送迎時に乗車人数が何人いるか見える化し、降ろし忘れがないよう独自のツールを利用し工夫している。	安全計画はホームページに記載しています。日々安全に配慮した支援を行なっています。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		安全計画についてはホームページで周知している。	平常時だけでなく緊急時にも対応できるよう研修等今後も継続して行ないます。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		ヒヤリの原因、経緯、対策は必ず全職員へ周知している。	ヒヤリハットについては記録を必ず残すようにし、再発防止に努めています。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		毎年職員に対して必ず研修とアンケートを実施している。	研修は毎年必ず実施しています。研修内容も毎年変更し、広い視点での虐待防止に努めています。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8		身体拘束等が必要な児童については事前に必ず保護者へ同意を得ている。放課後等デイサービス計画にも記載している。	どの児童が該当するのか、その理由も含め職員に周知するようにしています。	